

# 議会の手帖

## いちにち女性議会を 開催しました。

令和4年3月23日(水)午前9時より、犬山市役所6階議場で開催をいたしました。  
13名のいちにち女性議員がそれぞれの思いを込めた質問を記載しましたので是非ご覧ください。



### 犬山市の将来の 農業を見据えて



澤木 由加

**Q** 農業者育成のための取り組みはどのようなものがあり、参加状況はどうか。

犬山市でも農業を始めるきっかけとなるよう「実習型農業塾」を実施できないか。

**A** 市では、農業者育成に向けた取り組みとして、野菜の栽培方法や肥料の使い方などを学ぶ「チャレンジ農業講座」を座学形式で実施しており、今年度は20名の方に参加いただきました。過去に実習型の講座を開催していましたが、講師やほ場の確保が難しく、現在は実施していません。引き続き充実した講座を実施できるよう、実習を取り入れることを検討していきます。

**A** 農業は産業の重要な柱と考え、市の施策でも重視して展開してきました。実践型の講座として、現在子どもを対象とした「子ども大学農業学部」を実施しています。

今後、大人向けにも講座を開催できる体制を構築していきたいと考えています。

### 小学校や地域社会における 身体障害児との関わり



鈴木 千裕

**Q** 身体障害のある子供への学校での支援を、他市町の水準まで引き上げられないか。

また職員の増員ができないなら市民活動団体「スクールスマイルサポーターズ」の活動の輪を広げるきっかけを作れないか。

**A** 令和3年度には介助員の勤務時間を拡充するなど、雇用条件や配置人数の拡大を進めており、他市町と比較しても介助の必要な児童生徒への支援を積極的に取り組んでいると考えています。「スクールスマイルサポーターズ」の活動に対しては、市民活動団体をサポートする助成金制度があるため、ご活用いただけると考えます。

**A** 障害の有無に捉われず、保護者や子どもの思いに寄り添い、通常学級で受け入れる体制は他市と比較して広く扉が開かれていると考えます。学校生活の支援を全て行政で行うことは困難ですが、お子様の状況に応じたきめ細かい支援をできるよ

うに引き続き取り組んでまいります。



### 子育て応援について



板津 道代

Q 北小学校区内に児童館機能をもった場所を復活できないか。また子育てアプリ「Mamaたす」に習い事情報を載せるなど内容を充実させ、活用できないか。

A 北小学校区内には、犬山西、犬山南児童センターなどがあり、中央児童館の閉館後も多くの親子にご利用いただいています。また市立図書館内には子ども読書空間「ブックキャンプ」が整備され親子で楽しんでいただけます。子育て情報の発信では「Mamaたす」や「ポンテ」を開設しておりますので、広く周知に努め、多くの情報を掲載できるよう図ってまいります。

A 今後は、公共施設を特定の用途や対象に絞らず、地域コミュニティが広く活用できるような見直しをいたします。今後も北地区の既存の施設を活用して子どもが触れ合う場を作ることなどに支援や応援をしていきます。



### 親子で楽しむ給食会について

### 給食会について



高木 伸江

Q コロナ禍で親子給食が実施できていないが、感染予防をしながら「親子で楽しむ給食会」を池野小学校をモデルとして実施できないか。また給食が食べられる店を作れないか。

A 保護者向けの給食試食会は新型コロナウイルスの感染が落ち着けば再開を考えています。また生涯学習出前講座や学校の試食会において希望される地域の方に給食を提供できるよう取り組みます。また給食メニューのレシピを広報などで紹介してまいります。

A 給食試食会はより広く学校給食を知っていただく重要な機会と考えています。「給食が食べられる店」については、レシピを民間に提供し、オープンデータを色々な地域活動に役立てていただく一環として、積極的に取り組んでまいります。



### 在宅訪問管理栄養士の充実について



与儀 美穂子

Q 高齢化社会において、元気な高齢者でいられるよう食事を通して支援するために、在宅訪問管理栄養士と犬山市との連携を強化する必要があると考えますが、どうか。

A 市民総合大学では、高齢者に必要な栄養や正しい食事の取り方等の講義を行っています。また市の管理栄養士による食事の助言のための個別訪問等も実施しています。現在は市と在宅訪問管理栄養士の連携はありませんが、今後は市が開催する研修会等に参加いただくなど関係づくりに努めます。

A 在宅での医療や介護が高まっていく流れの中で、特定の分野でなく他職種が連携して隙間なくカバーしていくことは重要と考えます。より幅広い観点で栄養を捉えながら在宅訪問管理栄養士の方の知見も取り入れるよう意識してまいります。



## 観光客の歩道の

## 安全確保について



増田 美恵子

Q 犬山駅西口から城下町入口までのメイン道路を歩く観光客の安全のために、電柱を地中化できないか。また歩行者がメイン道路に集中しないよう、別の通りへの分散化を提案するがどうか。

A 市では歩行者の安全を確保するため、管理者の県に要望し、平成25年度に路肩のカラー化が実施されました。電柱の地中化は道路拡幅工事と一体であるためすぐには実現できませんが、粘り強く要望していきます。また他の周遊ルートへの誘導を実現するため、通りごとの魅力を高めていけるよう検討を進めていきます。

A 城下町の住民とお店の経営者と一緒に方向性を見出す局面にあると考えています。また木曾川河川空間を活かしたまちづくりを進めることで混雑の解消に繋がる可能性もあると考えるため、そういった観点でまちづくりを進めていきます。



## 魅力ある城下町の

## 形成について



平内 裕美子

Q 城下町は観光客で賑わう中、マナーを守らない人も増えている。路上喫煙を含め市はどのように対処するべきと考えているか。また商売する人と住人がまとまるための組織を作る取り組みはされているか。

A 観光客のマナー向上のために、一人一人が自分事と捉えていただけるよう啓発活動を継続してまいります。城下町の路上喫煙禁止区域の指定については、現状の運用状況を検証しながら議論を進めていきます。また観光に携わる方が対話する場として「観光まちづくり会議」を開催しています。今後も事業者同士が繋がる対話の場を設けていきます。

A 課題解決のためには、住民と事業者をつなぐ組織やコミュニティができるだけでなくリーダーが必要となります。対話の中でリーダーが生まれてくるような場所を作っていくたいと考えます。

全市を絡めた観光戦略と  
情報の共有化について

中島 美佐子

Q 市民でも市の観光情報やイベント情報を知らないことがある。市内全域の情報を横断的に発信できないか。また地元の人も行きたくなるまちづくりや、城下町地区のにぎわいを市内で共有できないか。「本物の犬山」とはなにか。

A 今の情報発信の取組みを前進させるため、各店舗にサイトのQRコードを配布するなど工夫していきます。また地元から愛される観光地を目指すため、市全域に波及するような取り組みが必要であると考えています。先人が残してきた宝を次の時代に伝え、現代でも活用し楽しんでいく事が「本物の犬山」と考え、本物の犬山について語り合える場を作っていきます。

A 犬山の本物の魅力は、犬山城や城下町だけでなく人の営みの中にもたくさんあります。そうした皆さんの本物を犬山全体で共有し、資源として活用していくことや本物の考えを共有していく取り組みを深めていきます。





## 子どもが集える場の 設置を求める



御手洗 和子

**Q** 大人と子どもと一緒に遊べる場の整備状況はどうか。子どもの成長のためには豊かな遊びと文化的な環境が必要と考えるため、遊んで学べる場「子どもみらいセンター」の設置を求めるが、市の考えはどうか。

**A** 市内には、児童センターや子育て支援センター、公民館の公園のほか、図書館にオープンした「ブックキャンプ」などがあります。また現在コロナ禍で見合わせていますが、五郎丸地区に計画中の道の駅にも子どもの遊び場となる施設の整備を検討しています。子どもたちが健やかに育つため環境整備が必要というのは議員とおなじ考えです。

**A** 子どもたちの遊び場としては、箱物だけでなく里山や伝統文化など犬山のフィールドを活かした、充実した取り組みを展開できていると考えています。今後も地域と連携し環境を整えていきます。



## 空き家バンクの 取り組みについて



近藤 結麻

**Q** 市ホームページの空き家バンクの情報が分かりにくいと感じる。もっと工夫できないか。また空き家バンクの新たなシステムとして、短期間の移住体験やミニツアーを行うのはどうか。

**A** 空き家バンクの表示方法は、活用していただく方の視点に立ち、分かりやすく表示方法を見直します。移住体験は空き家所有者の意向等により実現していませんが、今のところ活用実績は順調なため、まずは空き家バンクの掲載内容を充実させ、見やすく、分かりやすい構成に努めます。

**A** 必要な情報が必要なタイミングで相手に届いているかが重要であり、「伝わる伝え方」ということは職員の意識改革の第一目一番地だと思っています。貴重な指摘をいただきましたので、情報がより分かりやすく伝わるよう工夫していきます。



## 犬山の食と農業の環境 整備と活用について



新城 朱莉

**Q** 小さいころから農業に触れることのできるイベントをもっと増やしてはどうか。また名古屋経済大学と連携して特産品の開発やレシピの考案ができないか。

**A** 市では、子ども未来園や小学校で野菜の栽培や農業体験を実施しているほか、小学4～6年生を対象とした子ども大学農業学部等を開催しており、子どもの頃から農業に関心を持つてもらうことは重要と考えています。また名古屋経済大学などと連携してレシピも考案しています。今後も学生の柔軟なアイデアを活かしていきます。

**A** 名古屋経済大学との連携はぜひ取り組んでいきたいと考えます。大学と一緒に、連携のあり方を考えていきます。他の団体が取り組む農園の中に大学も参画していくなど、可能性は色々あると考え、大学と農業の連携につながる支援を行っていきます。



## 市が実施している

### 回覧板について



加藤 愛

**Q** 町内会の作業軽減の観点から、回覧とする文書の基準や説明を載せた回覧マニュアルを作成できないか。またデジタル町内会のモデル町内会を募集し、初期費用を市が負担する取り組みは今後も積極的に実施するべきと考えるがどうか。

**A** 回覧物の選択は、町内の規模や歴史背景により異なると認識していますが、町内業務の負担軽減のため、今後も市及び関連団体からの回覧等は広報配布時に合わせて周知するよう努めます。またデジタル町内会事業は、実証実験を踏まえ、本格運用する計画です。町内住民の合意形成を図っていただき、是非ご参加ください。

※当日はご都合により欠席されました。

## 市民への

### 情報発信について



石橋奈津予

**Q** 市は若い人たちが暮らしやすい取り組みをしているのに情報がうまく伝わっていない。市民への情報発信をどう考えているか。とくに若い世代への周知について今後の取り組みはどうか。

**A** 市民への情報発信は「必要な情報を、必要の人に、必要なタイミングで届ける」ことが重要だと考えます。どういう方が必要としていて、どの手段で発信するのが良いのかを考えていきます。情報のあふれの中で興味を持ってもらうのは難しい面もありますが、周知のタイミングを工夫して、少しでも市が何をやっているのか興味を持っていただけるよう努めます。

※当日はご都合により欠席されました。

## 編集後記

いちにち女性議会実行委員会

委員長 岡村 千里

いちにち女性議員のみなさま、市議会や市当局の関わって下さった方々のご尽力で「いちにち女性議会」を開催でき、とても嬉しく思います。

今回も、女性の目線での一般質問を行い、どれも重要な課題であることを再認識いたしました。このような取り組みを通して市民のみなさんが市議会への関心を高め、また一人でも多くの女性議員の誕生に結びつくことを期待しています。今後も犬山市議会は、女性の活躍を応援してまいります。

いちにち女性議会

実行委員

■委員長 岡村千里

■副委員長 諏訪毅

■委員 畑竜介

鈴木伸太郎

玉置幸哉

